

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	鹿島市立北鹿島小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上コーディネーター、研究主任を中心に全職員で取り組んだ授業研究や、学力向上対策シートのマイプランを教職員で共有し授業改善に努めた効果が少しずつ現れてきた。その反面、個々の児童、また学年によって学力検査等の結果に開きが見られるので、次年度以降、重点的に指導改善を行っていく必要がある。</li> <li>・「命ひびき合い」の教育目標のもと、学校生活全般において、児童が互いの良さを認め、ほめ合う活動を日常的に行ったことにより、お互いを思いやる心の醸成を図ることができた。児童自身の自尊感情をさらに高めるために、次年度以降もこの児童主体の取組を続けていく。</li> <li>・コロナ禍ではあったが、「どうすればこの状況下で十分な活動ができるか」を念頭に、地域の手厚い支援を受け、工夫しながら体験活動を行うことができた。次年度以降も、学校運営協議会の委員の方々と協力し、また様々なアイデアを参考にしながら、児童自身がふるさとに誇りをもつことができるような体験活動を仕組んでいきたい。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>「命・ひびき合い」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆児童1人ひとりが可能性を広げ、生き生きと自分のよさを発揮している姿</li> <li>☆学び合いながら、互いの良さを認め、それぞれの感性をひびき合わせている姿</li> <li>☆自尊感情を持ち、友だちの良いところに気づき、たたえる姿</li> </ul>
----------	---

3 本年度の重点目標	「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「たくましい身心の育成」を柱に、教師の授業力の向上、学級経営力の向上、地域との連携強化に取り組んでいく。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1) 共通評価項目											
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員で5月中旬までにマイプランを共有すると共に、積極的に校内研修に取組む。全学級で研究授業を実施し、学力向上に努める。 ・タブレット端末を使用した授業を、年に1回以上実践する。	A	・ほぼ全ての担任がマイプランを作成し、学習指導に活かしている。また、授業研究会も3ヶ月で3学級が実施した。10月までに全学級が研究授業を行う予定である。 ・タブレット端末を使用した授業実践は、全ての学級で実施できている。また、新型コロナウイルスで登校できない児童に対しても、リアルタイムで授業をおこなう実践もできている。	A	・全教員が、マイプランを作成し、指導に活かすことができた。また、研究授業についても、全学級担任が実践し、事後研究会まで開催することができた。 ・タブレット端末については、全学年で効果的に学習で活用することができた。	A	・誰もが分かりやすく興味を引くような授業をされていて、先生方が努力をされていると感じた。 ・学力向上のための様々な取組や先生方の共通理解がその都度図られているところがよい。先生方のご尽力を感じる。	(学力向上プロジェクト) (研究主任)	
	○家庭学習と読書活動の充実	○決まった時間に家庭学習に取り組む児童の割合を80%以上とする。 ○年間読書数100冊以上達成児童を90%以上にする。 ○ノーテレビ・ノーゲームデー実施者を95%以上にする。	・自学ノートに取り組ませる。 ・算数科で、事前学習に取り組ませる。 ・月に1度「家読週間」を設定し、読書習慣を根付かせる。 ・毎月、ノーテレビ・ノーゲームデーを実施し、集計する。	B	・自学ノートには、おおむねどの学年も実施出来ている。 ・事前学習については4年生以上の学年で、おおむね実施出来ている。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーについては、4月～8月は、95%を超えていなかったため職員連絡会等で職員に呼びかけを行うとともにまちこみメールで保護者にも呼びかけた。9月の実施では、98%を超えた。 ・読書に関しては、100冊以上読んだ児童が全校で11人である。また、7月までの1人あたり平均読書数は、51.7冊であるが、学年間の差が大きい。	B	・自学ノートについては、どの学年もよく実践できている。 ・「学年で決まった時間、家庭学習ができた」とした児童は86%で、目標値の80%以上を達成することができた。 ・読書については、「毎日読書をしている」とした児童が75%で、達成率が高いとは言えない。100冊以上読書をした児童は76人、1人あたりの平均読書数は107.8冊である(1月26日現在)。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーについては、10月から1月までの平均達成率は98%であった。児童は、よく頑張っていると言える。	A	・低学年から社会体育の参加をしている児童が多い中に家庭学習指導は大変だと感じる。しかし、学校で徹底した指導がなされていると感じる。 ・家庭において定着させることはなかなか難しいと思うが、達成率80%以上の達成率はすばらしいと思う。 ・朝の時間に10～15分程度でも朝読書の時間があってもいいのではないかと。 ・職員のアンケート結果で読書指導の推進に取り組んだと肯定的に回答している職員が1名もいない。職員間の読書指導に対する共通理解を図る必要があると思う。	(学力向上プロジェクト) (図書館教育担当)	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「命・ひびき合い広め隊」の放送で、全学年のクラスが1回以上紹介される。 ○道徳の授業(年間35時間以上)を確実に実施する。	・職員が、目指す児童の具体的な姿を児童の中から見つけ出し、児童の放送をサポートしていく。 ・帰りの会で、「良いこと見つけ」を行い、支持的風土の雰囲気づくりをする。	A	・児童による毎日の放送が確実に行われている。また、同じような取組をしている学級が増え、学年の枠を超えて、支持的風土が育ってきている。 ・6月の授業参観で、ふれあい道徳を実施した。 ・誕生日を迎えた児童を放送で紹介する取組を始めた。	A	・「命・ひびき合い広め隊」から紹介されるクラスは、1月現在で全クラス達成できた。給食時間に紹介される児童は、どの子も嬉しそうなお顔をしていたので、来年度も続けていきたい。 ・今年度は、「教育相談週間」を年2回実施した。 ・放送委員会で「6年生の思いで特集」に取り組んだ結果、先輩から後輩へのメッセージをおくる計画を立てている。	A	・人への思いやりを大切にすることがアンケートの結果から分かる。心の教育にも先生方の配慮や取り組みがしっかりとされている。 ・子供たちを褒めることは大変よいことだと思う。	(心の教育プロジェクト)	

●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「生活アンケート」実施で、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。	・年3回の生活アンケートやQ-Uテストの実施および相談箱の活用で実態把握に努める。 ・スクールカウンセラーが行う校内研修会を実施する。	A	・6月実施の「生活アンケート」では、90%の児童が学校生活に満足していると回答していた。 ・5月に全校児童に対して、SNS等ネット上でのいじめ防止教室を講師を招聘して実施した。 ・今年度は、7月上旬に教育相談週間を実施して聞き取りを行った。 ・不登校傾向の児童とその保護者に対し、外部専門機関との連携を図ることができ、やや改善の兆しが見られてきた。	A	12月実施の「生活アンケート」では、82%の児童が安心して学校生活を過ごしていると回答していた。アンケートからは、90%以上を得ることはできなかったが、QUテストの結果における学級への満足度や友人関係の関わり方に大きな問題は見当たらなかった。 ・12月の人権週間に向けて「言葉づかいアンケート」を行い、結果を受けて担当が各学級で指導した。 ・スクールカウンセラーやベテラン教諭による校内研修を行った。それぞれの学年で振り返り、課題の対応策を話し合った。	A	・相談箱の活用が大事にされていないように感じる。「いつでも話せる」環境が学校にあることを見直してほしい。 ・いじめの早期発見は重要。少しでもおかしいと感じたり小さないじめでも保護者との情報共有は不可欠だと思う。	(心の教育プロジェクト)
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて日々の活動に意欲的に取りもとうとするための教育活動	◎キャリアパスポートを活用し、学期ごとに学習と生活のめあてを立て、めあてが達成できた児童の割合を80%以上にする。 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)100%にする。	・キャリアパスポートをカリキュラムの中に位置付け、学習活動の中で児童に計画的に取り組ませる。 ・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに取り組む。	A	・キャリアパスポートに現在の夢を書かせたところ、90%以上の児童は、具体的に書くことができた。 ・新型コロナウイルスにより、宿泊訓練や修学旅行の一部の体験活動が延期になった。今後、体験活動の授業では、みそ作りや米作り等、地域の方の思いに触れるようにしている。	A	・どの学年もキャリアパスポートを利用して、長期休業の終わりや後期が始まる10月に学習と生活のめあてを立てて学校生活を過ごしたり、反省したりできた。 ・今年度も新型コロナウイルス対策により、地域合同の運動会や一部の体験活動ができなかった。しかし、どの学年も積極的に体験活動の授業を行い、地域の方の思いにふれることができた。	A	・90%以上の子供が夢を具体的に書いていることはとてもすごい。児童の資質や能力を育む授業は素晴らしいと思う。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)100%にする。と成果指標に掲げられているが、将来の夢や目標を持っていない子供が10%という。 ・夢や目標をもつことは、とても大切なことだ。	(心の教育プロジェクト)
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」  ●「安全に関する資質・能力の育成」	○早寝・早起きができる児童の割合を85%以上にする。 ○1日のテレビ・ゲーム等の視聴時間2時間以内の児童の割合を80%とする。  ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・児童への指導だけでなく、家庭への啓発を行い、学校と家庭が連携して望ましい生活習慣の獲得に努める。 ・年2回アンケートを実施する。  ・「北鹿島小安全マップ」を用いて、危険箇所等について児童と情報を共有する。 ・児童自身が自分の身を守ることを意識できるよう、一斉下校指導時等に確認及び指導を行う。	A	・「早寝・早起き・朝ごはん」の実態調査を11月に実施し、「早寝」は75%、「早起き」は83%、「朝ごはん」は96%であった。また、1日のゲーム・動画の視聴時間は、各学年平均2時間以内であった。(1月実施分では82%) ・早寝・早起き・朝ごはんの結果とともに、テレビ・ゲーム・動画の視聴時間や学習時間についてもお便りで家庭にお知らせした。 ・安全マップをもとに、夏休み前の地区児童会で、それぞれの地区の危険箇所を確認した。	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」の実態調査を11月に実施し、「早寝」は75%、「早起き」は83%、「朝ごはん」は96%であった。また、1日のゲーム・動画の視聴時間は、各学年平均2時間以内であった。(1月実施分では82%) ・早寝・早起き・朝ごはんの結果とともに、テレビ・ゲーム・動画の視聴時間や学習時間についてもお便りで家庭にお知らせした。 ・一斉下校指導時だけでなく、敷地内や校外の工事が始まるときには放送で児童に伝えたり、登下校中のトラブルが起きたときは登校班を集めて指導を行ったりした。	A	・朝ごはんを食べている児童が96%いることはよいことだが、朝ごはんを良く食べていない子供もいる。早寝早起きができないのは、ゲームが原因なのだろうか。 ・習い事をしている家庭は、宿題・ご飯・入浴が習い事終了後となり、早寝が難しいところもある。 ・地区内に安全に遊べる公園、広場がないので市の方でも考えてほしい。 ・家庭との連携が大切。 ・子供たち自身が自分の身を守ることを知るための指導はとても良いことだと思う。	(学力向上プロジェクト) (健康教育プロジェクト)
	○自主的体育活動の促進	○進んで運動しようとする児童の割合90%以上の継続を目指す。	・外遊びの推奨や県の「さがんキッズスポーツチャレンジ」への取組で、全学年、児童の体力向上のための支援を行う。 ・縦割り活動での遊ぼうタイムやマラソントイム、各種記録会(水泳、なわとび等)を充実させる。	B	・熱中症予防のため、暑さ指数を基準に、昼休みの外遊びの可否を全校放送で伝えた。遊ぶときは、帽子と水筒を持ち、適宜休憩を取らせて遊ばせた。しかし、無理に外に出すことはしなかった。 ・コロナ感染者の急増に伴い、たてわり遊びや水泳記録会は中止や縮小した形で実施した。	A	・保健・体育委員会が企画し、全校でドッチビー大会を行った。教職員もチームをつくり、児童と一緒に楽しむことができた。 ・夏休み明けには、コロナ感染者数も落ち着いてきたので、たてわり遊びやマラソントイム(12月)を実施することができた。 ・冬休み前に「さがんキッズ体力アップカード」を家庭に渡し、児童と一緒に外遊びについて振り返ってもらった。 ・体を動かす遊びをしている児童は85%であった。(1月実施)	A	・先生方も一緒になって楽しめることはとてもよいことだと思う。子供たちも嬉しいと思う。 ・遊具等を整備してもらって、もっと活用してほしい。 ・バギー競技を取り入れていただけると有り難い。 ・コロナ禍の中でも工夫され努力されていることを感じる。	(健康教育プロジェクト)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校内掲示板の活用により、職員会議や連絡会の回数減及び時間短縮を図る。 ・備品等を計画的に整理し、探す時間を削減する。 ・執務スペースを職員の導線に沿って適切に配置することで業務効率を向上する。	B	・PC校内掲示板を利用することで連絡会等での発言が縮減され、時間の短縮に繋がっている。 ・夏休業中に全職員で、備品等の整理を行った。 ・整理後の空スペースを活用し、適切な物の配置を検討し環境を整えていく。	A	・PC掲示板や、職員室後方の掲示板の活用により、会議等の時間短縮に繋がった。 ・夏休みの作業以降、職員の整理整頓に対する意識が高まっていると感じている。探す時間が減り、効率的な仕事環境が作り出せている。 ・後期は、水曜日の定時退勤日の実施を徹底させた。その結果、前期に比べて時間外勤務が若干削減された。次年度は、今年度より5%削減を目指す。	A	・働き方改革が進んでいてとてもよいと思う。 ・仕事の効率化が図られることはとてもよいことだと思う。先生方のご苦労が出来るところから軽減されますように思う。	(省エネ・効率化プロジェクト)
	○計画的な年休取得の促進	○年間年休取得日数平均12日以上を目指す。	・長期休業中の登板勤務を長期休業中の会議・研修等を厳選し、まとまった休暇が取りやすい環境を整える。 ・長期休業中の当番勤務を廃止し、まとまった休暇が取りやすい環境を整える。	A	・まとまった休暇を取りやすいように夏休業中の当番勤務を廃止したため、まとまった休暇が取りやすくなった。(9月までの平均取得日数10日)	A	・冬休業中も夏休業中と同様に当番勤務を割り当てることを辞めたり、必要な研修は、一日にまとめて行うなど、年休をまとめて1日とることができるよう体制を整えた。また、年休取得日数が少ない職員については、個別に声をかけて、取得推進を行った。(12月末までの平均取得日数13日間)	A	・働き方改革が少しずつ進んできているようなので良かった。	(管理職)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携	○地域連携の強化及び開かれた教育課程の実現	○体験活動を通して、北鹿島のよさを感じることができる児童90%以上の継続を目指す。 ○体験活動での学びを進んで発信しようとする児童85%以上を目指す。	・地域との体験活動では、児童に活動の見通しを持たせ、学びの振り返りを行う活動を通して、北鹿島のよさを感じさせるようにする。 ・児童の主体的な学びのために、地域との体験活動を通して学んだことについて発信する手立てを考えさせるとともに発信方法を工夫させるようにする。	B	・学年レベルの体験活動は、感染対策をとりながら可能な限り開催し、各学年の発達段階に応じて学びの振り返りを行う活動を仕組むことができている。学んだことの発信方法の工夫については、今後工夫していきたい。 ・千葉県の小学校とのオンライン交流で発信する内容について、学習を進めている。	A	・コロナ禍にあり、体験に関わる方の人数を制限したり、体験を縮小したりした。限られた活動の中で、92%の児童が北鹿島の良さを感じることができた。 ・体験後の感想を書く際には、90%以上の児童が進んで書くことができた。また、全校児童が年賀状を出し、地域の方とのつながりも生まれた。今後も地域連携の強化に向けた活動を重視していきたい。	A	・コロナ禍で難しい面が多々あったと思われる。 ・コロナ禍の中で存分に活動が出来なく、先生方も色々と工夫をされ、その中で地域への意識、他地域との交流に多数の子供たちが良さを感じているのは嬉しい。 ・地域との交わりはよくできていると思う。	(郷土愛・体験活動プロジェクト) (管理職)
○特別支援教育の充実	○全職員の専門性と意識の向上	○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っているという回答する職員を95%以上にする。 ○「学校は児童一人ひとりの理解に努め、指導や支援を行っている」について、肯定的な回答をした保護者85%を目指す。	・合理的配慮についての研修を行い、理解を深め実践につなげていく。 ・児童のつまずきに応じた指導を工夫し、その手立てと効果について保護者に発信していく。	B	・夏季休業中に合理的配慮や授業UDの視点について研修を行った。職員間で情報共有をしながらより良い支援を行っていく。 ・研修の中で、学習アプリをとりあげたので、学年の実態に応じて活用していきたい。 ・支援学級の学習の様子を通信で伝えられている。	B	・発達障害やその傾向にある児童の支援について手立てを講じることができたと回答した職員は87%で、目標に達することはできなかった。合理的配慮は行っているが児童の変容には時間がかかるため支援が不十分だと感じている職員もいるようだ。 ・「学校は児童一人ひとりの理解に努め、指導や支援を行っている」について、肯定的な回答をした保護者は97%で目標を上回ることができた。	B	・一人ひとりの理解に努められるということは本当に大変なところがあると思う。今後も支援を受けられるようより一層の取組を期待する。 ・少人数での支援だと思うが、先生方は頑張っていると思う。 ・積極的な取組がまだまだ不十分だと思う。	(特別支援教育担当) (管理職)
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・学力向上コーディネーター、研究主任のリーダーシップのもと、マイプランの共有や授業研究を通して授業改善に全職員で取り組むことができた。特に算数科においては、学習過程や家庭での事前学習等北鹿島小の授業スタイルが定着しつつある。しかし学年によって学力検査等の結果に開きが見られることから、学力に課題のある学年に対する指導法改善を進め、学校全体での学力向上に取り組む必要がある。</p>
	<p>・望ましい生活習慣の形成について、子どもたちに規則正しい生活習慣の必要性を感じさせるとともにPTAと連携し、家庭での取組みの促進につなげたい。家庭と学校との連携によりたくましい身心の育成の向上を図りたい。</p> <p>・体験活動においては、コロナ禍であっても、実施することを前提に計画を立てることができた。学びを止めないという意識で工夫しながら体験活動を行うことができた。今後も学校運営協議会委員の方を中心に、地域とともに育つ学校づくりを目指していきたい。</p> <p>・時間外勤務の削減については、管理職の呼びかけで職員が意識して業務を行うようになってきている。次年度は、職員全体で時間外勤務時間削減についてアイデアを出し合って、働き方改革に推進していきたい。</p>